

3月例会は「ディア・ドクター」

2010年度総会は4月27日

運営状況と今後の例会予定

2009年度も終わろうとしている中、総会に向けて資料を整理していると、やはり、会員数の伸び悩みで、会の運営が厳しくなっています。例会の選定にあたっては、以前なら経費のかかる35mmフィルム作品を選んだり、配給先との価格交渉も少しは余裕を持って行うことができたのですが、最近では16mm作品だけでなく、ブルーレイ作品やDVD作品を中心に安価に配給してもらえる作品しか選べなくなっている状態です。

このような事情もあり、以前に7月例会を「南極料理人」と告知していましたが、次点候補であった「その木戸を通して」に変更することになりました。変更前の作品を楽しみにしていた方をはじめ皆さんにお詫びいたします。5月例会は予定通り「扉をたたく人」です。

作品選定時には、10件程度のオススメ作品の中から、内容や推薦理由を話し合って選んでいるのですが、推薦作品の中からとはいえ、上映経費が安いことが大きな選定理由になってきているのは残念なことです。

運営面から考えると、一度、赤字に陥ると建て直すことが、たいへん困難なことだと考えていますので、会費の範囲内で運営できる方法を模索しています。会員のみなさんには、このような事情であることをご理解願います。

例会のお知らせ

- 名称／第47回例会「ディア・ドクター」
- 日時／3月16日(火) ①PM1:50～、②PM4:10～、③PM6:30～
- 場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)
- 受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。



「ディア・ドクター」チラシ

【例会作品データ】

■タイトル／ディア・ドクター

■監督／西川美和

■出演／笑福亭鶴瓶、瑛太、余貴美子、井川遥、松重豊、岩松了、笹野高史、中村勘三郎、香川照之、八千草薫

■データ／2009年、日本、カラー、1時間57分、ドラマ／ヒューマン、DVD、第33回日本アカデミー賞優秀作品賞・優秀監督賞・優秀脚本賞・優秀撮影賞・優秀照明賞・優秀録音賞・優秀編集賞・優秀主演男優賞・優秀助演男優賞・優秀助演女優賞、第52回ブルーリボン賞監督賞・主演男優賞・助演男優賞、第83回キネマ旬報ベストテン日本映画ベストテン第1位・日本映画脚本賞・主演男優賞・読者選出日本映画監督賞ほか映画賞多数受賞。

■ストーリー

山あいの小さな村。数年前、長らく無医村だったこの地に着任して以来、村人から大きな信頼を寄せられている医師、伊野治(笑福亭鶴瓶)がいた。

そんな彼のもとに、東京の医大を出た若い研修医の相馬(瑛太)が赴任してきた。伊野は、高血圧、心臓蘇生、痴呆老人の話し相手まで一手に引きうけ、村人から大きな信頼を寄せられていた。

そんなある日、かづ子という独り暮らしの未亡人から病気のことを都会で医師をしている娘に知られたくないからと、一緒に嘘をついてほしいと頼まれる。頼まれた嘘を突き通すことにしたことから、伊野自身が隠していた嘘が浮き上がってくる。ずっと言うことができずにいた、あの嘘が・・・。

「蛇イチゴ」、「ゆれる」の西川美和監督が、映画初主演の笑福亭鶴瓶を迎え、僻地医療を題材に描いたヒューマンドラマ。

加古川シネマクラブ「2009年ベストテン」

会員が選ぶ年間映画ベストテンを選定するため、1月例会を中心に投票をお願いしたところ、22人から邦画31作品、洋画44作品の投票がありました。その結果、邦画の1位「ディアドクター」、洋画の1位「扉をたたく人」に決まりました。

集計方法は、1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点の配点で、得点合計順に選び、以下にベストテンを報告します。

邦画の部、1位「ディアドクター」52点、2位「沈まぬ太陽」42点、3位「劔岳 点の記」26点、3位「南極料理人」26点、5位「旭山動物園物語」22点、6位「禅 ZEN」16点、7位「ゼロの焦点」13点、7位「風が強く吹いている」13点、9位「精神」12点、10位「その木戸を通して」7点。

洋画の部、1位「扉をたたく人」25点、2位「グラントリノ」22点、3位「人生に乾杯！」19点、3位「イングリシアス・バスターズ」18点、5位「そして、私たちは愛に帰る」15点、6位「子供の情景」9点、7位「シリアの花嫁」8点、7位「母なる証明」8点、9位「スラムドッグ\$ミリオネア」7点、10位「ウォーリー」6点、10位「チェチェンヘアレクサンドラの旅」6点。

定例総会開催のお知らせ

加古川シネマクラブでは、2010年度の定例総会を下記のとおり開催いたします。1年間の基本活動を決定する会議ですので、会員の皆さまには、ご出席いただきますようお願いいたします。

- 1 名称 2010年度加古川シネマクラブ定例総会
- 2 日時 4月27日(火)午後7時から 約40分間
- 3 場所 加古川総合文化センター会議室1
- 4 内容 2009年度事業報告に関する事
2009年度決算に関する事
2010年度役員を選任に関する事

2010年度事業計画に関する事

2010年度予算に関する事

5 参加方法 直接会場にお集まりください。

6 その他 当日に出席できない方は、委任状(書面であれば形式を問いません)を提出することによって、出席する会員に議決等を委任することができます。また、当日は、5月例会の発送作業を40分前から行っていますので、時間に余裕のある人は手伝ってください。

前回例会の報告

1月22日の例会では、「ヤング@ハート」を鑑賞しました。参加会員108人。

ドキュメンタリー作品は面白みに欠けるのですが、参加者からのほとんどの意見が、「元気になる良い作品」ということでした。

その他の報告とお知らせ

加古川市出身の松下俊文監督の初の長編作『パチャママの贈りもの』が1月30日から2月12日までワーナーマイカル加古川で上映されました。初日舞台挨拶では、監督に続き加古川市長までが挨拶があり今夏、市民会館で子供向けにこの作品の上映会を行うとか。会場が小さく1日1回の上映のため、土曜日と日曜日は混んでいました。塩の湖をはじめ現地の映像も美しく、近代化がひたひたと迫る中で、大自然の中で遅く先祖からの生活をたいせつにして暮らしていこうとする家族の姿を通して、監督のメッセージが伝わってきました。

また、2月16日(火)に、加古川総合文化センターで、兵庫県映画センター主催の『愛を読む人』上映会に協力しました。観覧者約250人と少なかったのは残念でした。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 153人(3月5日現在)